

1年で1番日照時間の長い6月。いつまでも明るい夕方。食後、テラスでゆっくりとビールを呑みながら話をする時間が大好きです。趣味の話、最近の話題、遠い日本の話などを取りとめも無くおしゃべりする時間。時の流れを忘れてしまいますね。これこそ日本では手に入れることのできない、スローなひととき。滞在中にたくさんエンジョイして欲しいと思います。

さて5月の晴れた日、久々に動物公園へ足を運びました。ゆっくりと動物たちを見ながら一日を過ごすのが大好きです。日本にいた当時も結構動物園に通っていました。印象に残っているのは冬の札幌の動物園でした。きりんや象が雪上に立っていたり、凍結した池にカバが入り込んだり。熱帯からやってきた動物たちが見事に環境に順応して生活している姿に動物の素晴らしさを感じました。

ベルギーの動物園はアントワープに代表されます。1843年に設立された王立の動物園です。この動物園も他の多くのヨーロッパの動物園と同様、もともと貴族の個人のものでした。そしてたくさんの品種が集まったため、貴族は一般の人たちにも動物を公開しはじめました。ヨーロッパ大陸でも古い動物園の一つです。珍獣もいませんし、大きさもそれほど広くはありませんが、動物たちの飼育環境が良く出来ているように思います。アントワープ以外にもサファリパークを含めると7か所の動物園がベルギーにあります。

年に一度は出かけるお気に入りの動物園は自宅に近い「Parc Paradicio」と呼ばれている動物園です。元々修道院の跡地に造られた鳥類専門の公園でしたが、長い時間をかけて総合的な動物園になってきました。身近な家畜からきりん、象、珍獣のレッサーパンダ、そしてオリジナルの特徴を引き継いでいる猛禽類のショーなどがあります。また水族館ではイソギンチャクやヒトデなどを直接手で触ることもできます。いつも開園と同時に入場するようにしています。動物園に早く行くと、普通見かけない光景に遭遇する可能性が高いからです。その日も珍しい光景に出会えました。アシカの朝ごはんの時間に立ち会えたのです。ここには3頭のアシカが飼育されています。1頭に1人の飼育係が付き添い、1頭ずつ体全体の健康状態をチェックしながら、巧みに餌を与えています。餌のためにアシカたちは足や手をあげたり、寝転んだり、水に飛び込んだりして総合的な動きを飼育係に見せます。その忠実に命令に従っている姿は犬のようでした。言葉はありませんが、飼育係とアシカの心が通じ合っているようでした。ペンギンたちもひょうきんに見物客を迎えてくれます。ペンギンの飼育は水面下でも様子が見られるようにデザインされたプールで行われています。空を飛ぶことのできない代表的な鳥であるペンギンですが、水面下で羽を上手に使いながら、自由に泳ぎ回っているその姿は、水の中を飛んでいるようです。リス猿の島に足を運びました。このリス猿は小島に放し飼いにされています。かわいい姿で見物者の心を引き付けながらも、素早く子どもの持っているおやつをひったくったり、鞆の中に手を入れたりするいたずら者たちです。1日3回の餌の時間があり、自分の手で餌を与えることができます。しかし、その餌というのは生きたままの虫の幼虫。手に受け取って思わず掘り出してしまう子どもや悲鳴を上げる女性などもあります。しかし猿たちにとっては貴重な食事。話ではこの猿は雑食性で果物や野菜、木の実、そして虫や小動物、魚までも食べるそうです。生きたままの虫を頬張る姿は動物の本能が表れているようで、優しいかわいい姿からは想像もできない姿です。このように動物園をぶらぶら散歩していると、表情が柔らかくなってくるのが自分でもよく分かります。そして周りの人たちも苦虫をつぶしたような表情の人は一人も見かけません。みんな動物に心を癒されているのがよく分かります。動物や子どもたちを見ていると、人は自然に和むのでしょう。

私たちの幼稚園では、園児たちが大人の心を和ませてくれています。特に1学期は新入園の子どもたちと、以前から通っている子どもたちとの間で、とっても微笑ましい光景を毎日のように見かけることができます。

Aちゃんは年少さんからこの幼稚園に通い始めました。いつもとても甘えん坊さんで、先生や年長さんに遊んでもらってばかりでした。先生の膝の上を独占し、他の子どもたちからクレームがついても知らん顔。いつも誰かにひっついてる子どもでした。しかし、年中さんに進級すると様子が変わりました。相変わらずの甘えん坊さんですが、自分から他のお友達のお手伝いをするようになったのです。お弁当の用意が遅いお友達や、お片付けの遅いお友達がいると、自分から進んでお手伝いをしてくれます。2か月前には想像もつかなかったし、また実際にはできなかったことが、進級という一つの節目を超えることで、できるようになっていく姿に思わず微笑んでしまいました。B君は年中さんになって、新しく入ってきたお友だちにお約束やおもちゃの遊び方などを教え始めました。

今までは遊んでもらう方でしたが、今度は遊んであげる方になって来ました。お友だちとの会話もはずんでいるようで、春休みの間に大きく成長していたんだなと思いました。C君は少し引くタイプでした。私との戦いごっこに参加したいのですが、どこかひっこんでしまうことの多い子どもでした。しかし、進級し新しいお友だちと仲良くなってくると、そのお友だちを誘って私に戦いを挑んでくるようになりました。しかもみんながあきらめても、最後まで戦うようになりました。そのうちもっともっと自信をつけると、とてもたくさんできるが増えるだろうなど見守っています。子どもたちはこうして育っていくのですね。そして次の世代を支えてくれるようになるのでしょうかね。

そんな子どもたちを大人は大切にしているのでしょうか？大切にすることと過保護に育てるのは違います。大切に育てることは大人の意志を優先して育てることではありません。「子どもという生き物は食べるものが少なくても生きていけるが、愛情を与えないと死んでしまったのと同然の姿になる」と言った詩人がいました。「子どもはいるだけでありがたい。彼らがいることで私たち人類は生き続けることができるのだから」と言った絵本作家もいました。これからの世界を支えていく子どもたちを、もっと大切にしていきたいと考えています。では大切に育てることはどんなことでしょうか？私は次のように思います。

1. 大人が子どもの考えをゆっくりと聞いてあげること。
2. 大人の希望を子どもに託さないこと。
3. 善悪を理解するまで、子どもの意志だけで物事を判断させないこと。
4. 悪いものは悪いと教えること。
5. 決まりごとは決めたもの同士が納得してから変えることだと教えること。

日々の生活でこの5つのことを心がけて欲しいと思います。今、自分でものを考える力の落ちている子どもが増えています。ほとんどすべてが与えられる環境で生きている日本の子どもが増えています。すると自力で判断する力も落ちてきます。マニュアルしか信じることのできない大人も増えています。受験に受かるテクニックは身につけているのですが、物事の本質を理解する力が身につけていない大学生がいると言われていています。大学の授業で話されたり書かれたりしている日本語が分からない学生もいると言われていています。このまま大人は何もせずに過ごして良いのでしょうか？

今の幼稚園児が大人になって働きはじめる時、世界は今以上に狭くなっていることと思います。そして仕事のパートナーは日本人とは限らない時代になっていると思います。そんな世界で生きていくには自分で考えて判断する力がとても大切になると思います。そんな未来にのびのびと生きていく人間に育ってもらうために、大人は今一度自分の責任を考えてみて欲しいと思います。

《つづく》

《 つづく 》